

平成 27 年度
札幌国際大学短期大学部
自己点検・評価報告書

学校法人 札幌国際大学
札幌国際大学短期大学部

札幌国際大学短期大学部の現状と課題

「基準Ⅰ～Ⅱおよび選択的評価基準について」

— 平成 27 年度自己点検・評価報告書 —

目次

1. 自己点検・評価の基礎資料.....	- 2 -
(1) 学校法人及び短期大学の沿革.....	- 2 -
(2) 学校法人の概要.....	- 3 -
(3) 学校法人・短期大学の組織図.....	- 3 -
基準Ⅰ－A 建学の精神.....	- 5 -
基準Ⅰ－B 教育の効果.....	- 7 -
基準Ⅰ－C 自己点検・評価.....	- 11 -
基準Ⅱ－A 教育課程.....	- 13 -
基準Ⅱ－B 学生支援.....	- 23 -
1. 教養教育の取り組みについて.....	- 41 -
2. 職業教育の取り組みについて.....	- 42 -
3. 地域貢献の取り組みについて.....	- 45 -

1. 自己点検・評価の基礎資料

(1) 学校法人及び短期大学の沿革

短期大学の母体は大正 11 年 4 月設置の札幌静修会女学校である。同校は札幌区立女子職業学校の同窓会が女子職業教育の必要性を唱えて構想したといわれている。昭和 8 年、職業学校規程により札幌静修会女学校から札幌静修女学校と改めた。昭和 9 年、文部大臣から財団法人札幌静修女学校として認可され法人組織に改めた。昭和 21 年に札幌静修女学校を廃止、札幌静修高等女学校設置が認可された。昭和 22 年、新学制に基づき札幌静修中学校を併置して発足。昭和 23 年新制高等学校制度が始まり、北海道知事認可によって札幌静修高等学校に改称した。昭和 26 年、財団法人札幌静修女学校を学校法人札幌静修学園と改めた。

昭和 44 年 4 月、札幌静修短期大学は家政学科（入学定員（以下「定員」という）100 人）と幼児教育学科（定員 50 人）をもって開学した。昭和 46 年、幼児教育学科の児童教育学科（初等教育専攻定員 50 人、幼児教育専攻定員 50 人）への名称変更が認可された。同年、札幌静修短期大学付属幼稚園の設置が認可される。昭和 49 年に教養学科（定員 100 人）の設置が認可され、昭和 50 年、家政学科の生活科学学科への名称変更が認可された。

昭和 50 年、法人名の変更（札幌静修学園から静修学園）が認可された。昭和 51 年、学校法人静修学園から高等学校を除く。同年 4 月、法人名変更に伴い、短期大学も札幌静修短期大学から静修短期大学に名称を変更した。昭和 55 年、北海道生活研究所（平成 4 年に北海道環境文化研究センター、平成 12 年に札幌国際大学地域総合研究センター、平成 15 年に札幌国際大学北海道地域・観光研究センターに改組）を設置する。昭和 58 年に秘書科（定員 100 人／平成 2 年に秘書学科に名称変更）、昭和 63 年に英語学科（定員 100 人）の設置が認可された。平成元年、児童教育学科初等教育専攻を募集停止する。平成 3 年 4 月、児童教育学科を幼児教育学科に名称を変更した。平成 5 年 4 月、四年制大学の静修女子大学を開学した。

平成 9 年 4 月、法人名を学校法人静修学園から学校法人札幌国際大学に名称変更し、短期大学も静修短期大学から札幌国際大学短期大学部に名称を変更して現在に至っている。平成 11 年には、専攻科幼児教育専攻（定員 10 人）の設置が受理され、学位授与機構の課程認定を受けた。同年、生活科学学科の総合生活学科への名称変更が認可された。平成 11 年に秘書学科、平成 14 年に教養学科の募集を停止し、これらの定員を同法人の四年制大学の学部定員へ移行し、新学部・学科を設置した。平成 14 年に英語学科を英語コミュニケーション学科に、平成 16 年に幼児教育学科を幼児教育保育学科に、平成 25 年には総合生活学科を総合生活キャリア学科に名称を変更した。平成 25 年には英語コミュニケーション学科の募集を停止し、その定員の一部を総合生活キャリア学科の定員へ移行している。

現在は、総合生活キャリア学科（入学定員 50 人、収容定員 100 人）、幼児教育保育学科（入学定員 140 人、収容定員 280 人）、の 2 学科体制となっている。なお、付属機関として、総合情報館（図書館、劇場、視聴覚関係）、情報教育センター、地域連携センター、教育支援センター、生涯学習センターを持ち、実践的な教育活動を支援している。

また、本法人が本短期大学部以外に設置する学校としては、観光学部（観光ビジネス学科、国際観光学科）、スポーツ人間学部（スポーツビジネス学科、スポーツ指導学科）、人

文学部（現代文化学科、心理学科）の3学部6学科と、観光学研究科、心理学研究科の大学院2研究科からなる札幌国際大学と札幌国際大学附属幼稚園がある。

(2) 学校法人の概要

- 学校法人が設置するすべての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数

(平成27年5月1日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
札幌国際大学短期大学部	札幌市清田区清田 4条1丁目4番1号	190人	380人	387人
札幌国際大学短期大学部 専攻科	〃	—	10人	1人
札幌国際大学	〃	465人	1,860人	1,150人
札幌国際大学大学院	〃	20人	40人	19人
札幌国際大学附属幼稚園	札幌市清田区美しが丘 3条1丁目2番1号	—	210人	205人

(3) 学校法人・短期大学の組織図

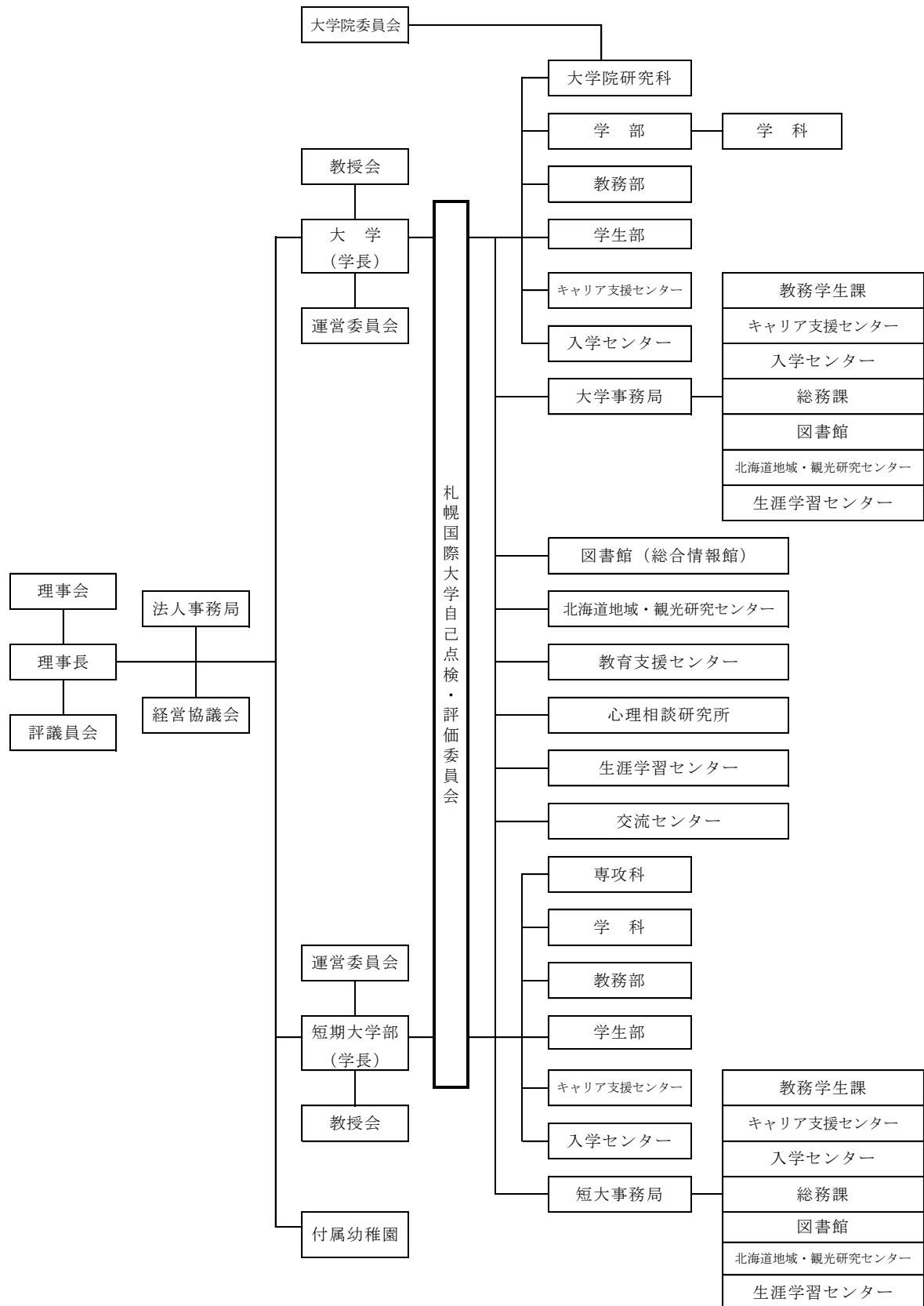
- 専任教員数、非常勤教員数、教員以外の専任職員数、教員以外の非常勤職員数

(平成27年5月1日現在)

専任教員数	非常勤教員数	専任職員数	非常勤職員数
21人	51人	11人	3人

■学校法人札幌国際大学組織図

(平成27年5月1日現在)



【基準Ⅰ．建学の精神と教育の効果】

(a) 【要約】

本学の建学の精神は「建学の礎」に表現され、「自立した人間の育成」、「地域社会への貢献」、「国際的な視野の涵養」の3点に凝縮されている。また、この「建学の礎」を受けて、「教育の基本的考え方」が定められ、個性を尊重し、学ぶ楽しさを味わわせる教育の実現が謳われている。この建学の精神は、ホームページや入学生・在学生に対する資料で表明され、本学の教育活動の指針であることが示されている。

建学の精神に則って、本学2学科の教育目標が定められている。総合生活学科では、主体的な生活力、地域社会に貢献する意欲、職業人に必要な実務能力の3点を、幼児教育保育学科では、保育理論・技術、共感的な心、豊かな人間性の3点を、それぞれ教育目標で定め、学習成果を上げるよう教育活動に取り組んでいる。自己点検・評価については、「札幌国際大学自己点検・評価規程」で定め、規程に則って自己点検・評価委員会によって行われている。今後、自己点検・評価の一層の活用が求められる。

(b) 【行動計画】

本学の伝統である実務・実学教育を推進するため、教養教育、専門教育、キャリア教育の充実を図る。今後も本学の個性を明確にした教育活動を推進する。

基準Ⅰ－A 建学の精神

(a) 【要約】

本学の建学の精神は、「建学の礎」に表され、明確に示している。またそれを内外に周知している。本学の教育理念の中心的な概念である「自立した人間の育成」「地域社会への貢献」、「国際的な視野の涵養」の3点に集約される。これを受け、「教育の基本的考え方」が定められ、個性を尊重し、学ぶ楽しさを味わわせる教育の実現が述べられている。

これらは教授会や運営委員会、FDにおいて、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて教育活動を点検し改善に努めている。

また在学生に対しては、「CAMPUS GUIDE」に掲載し、入学時のオリエンテーションや、初年次教育を実施する科目において、本学の教育方針と自己の目標を重ね合わせる機会を設定している。

(b) 【改善計画】

建学の精神、教育の基本的考え方について、オリエンテーションや、初年次教育の科目で取り入れる際には、単に知識として知るだけでなく、建学の精神、教育の基本的考え方が、現在の学びにどう関連しているかについて、理解が深まるような仕組みにする必要がある。

基準Ⅰ－A－1 建学の精神が確立している。

(a) 【現状】

(1) 本学の建学の精神を表した「建学の礎」は、下記のとおり大きく3点について本学の教育理念・理想を示している。まず第一に、本学の教育理念の根幹となる「自立」の精神の涵養である。高等教育機関としての使命は、何といたってもまず主体的に思索し、他に過度に依存せず他と適度に協調しながら自己を確立する個人を育成することであろう。その自由な自立の精神が、第二に地域で活躍し地域を発展させる原動力となる人材を育成することにもなり、また、第三に地域に根ざしながらも他の国々の人々と互いに価値を認め合って交流できる人材を養成することにもなるであろう。

この「建学の礎」を基礎として具体的な教育の指針を定めたものが、本学の「教育の基本的考え方」である。本学の教育理念の中心的な概念である「自立」した個人を養成するためには、一人ひとりの個性や興味・関心を受け入れ伸長する教育を推進することが必要である。自分の個性や興味・関心を自他ともに認めることにより、自分を理解し自己実現しようという主体が形成される。また、そのような興味・関心を伸長させるためには、自己を表現する楽しみや真理を探究する喜びを味わわせる学習を展開することが必要である。このようなことから、「自立」と並んで「学ぶ楽しさ」を実現する教育が本学で強調されているのである。

本学の建学の精神と教育理念	
建学の礎	教育の基本的考え方
△真理を探ね、自由を愛し、自らを省みる自立した人間を育成する。	△個性を尊重し、多様な生き方に応える生涯学習を推進する。
△理想を求め、明日の地域社会を拓く創造性豊かな人間を育成する。	△学ぶ楽しさや表現する喜びを通し、真理を探究する心と豊かな感性を養う。
△日本人としての自覚と誇りを持ち、自らの責任において行動する国際人を育成する。	△日本の歴史や文化を理解し、世界の動きに目を向け、すすんで社会に貢献する態度を養う。

(2) この「建学の礎」と「教育の基本的考え方」はホームページで学内外に表明するとともに、本学を紹介する主たる入試広報の手段であるキャンパスガイドなどにも紹介している。在学生に対しては、「CAMPUS GUIDE」に掲載し、入学当初のオリエンテーションでの説明や、初年次教育を実施する科目において、本学への帰属意識を養いながら本学の教育方針と自己の目標を重ね合わせる機会を設定しているほか、学内に2か所、学生の目に触れるところに大きく掲示し学生の理解を促している。

(3)教授会や運営委員会、FDにおいて、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて教育活動を点検し改善に努めている。また、年度末には、各学科・各部・各委員会の活動報告及び翌年度の活動計画について、建学の精神・教育の理念に基づいて協議を行っている。

(4)本学の教育の指針については、教授会や運営委員会、FDにおいて、在学生の状況や時代の要請を踏まえて議論を深めている。

(b)【課題】

建学の精神、教育の基本的考え方については、オリエンテーションでの説明や、初年次教育を実施する科目において触れているが、学生自身の理解は必ずしも明確ではない。建学の精神、教育の基本的考え方が、現在の学びにどう関連しているかについて、理解が深まるような機会が必要である。

基準 I－B 教育の効果

(a)【要約】

本学2学科の学科の教育目標は、建学の精神を表した「建学の礎」に則ってそれぞれ定められ、ホームページ、本学紹介パンフレット、在学生向け「CAMPUS GUIDE」などに掲載されている。また、それぞれの学科の教育目標に沿った具体的な学習成果の評価は、科目の履修や修得状況、学科が運営・企画する学習発表の場、学科の目指す資格取得の状況、卒業生の進路決定状況、また、平成21年度から展開しているキャリアパスシステムによる自己評価などによって多角的に行われている。

(b)【改善計画】

学習成果の評価は、上記に示すように、科目の履修状況、資格取得状況、また、就職内定状況などに基本的に現れるが、ただそれぞれの評価を寄せ集めるのみではなく、建学の精神を十分反映した教育活動の評価・点検に今後取り組みたい。

基準 I－B－1 教育目的・目標が確立している。

(a)【現状】

本学では、地域社会に貢献する技術や能力を身に付けた、人間性豊かな人材を養成することを共通の目標としている。それは、各学科の「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受け入れの方針」で示されるとともに、より具体的に各学科の教育目的・目標で定めている。

(1)各学科では、教育目的・目標を建学の精神に基づき、下記のように定めている。

①総合生活キャリア学科

「建学の礎」で謳われている、地域社会を拓く創造性豊かな人間を育成することを教育目標としており、「①現代生活で求められる基礎的・専門的な知識やスキルを総合的に活かし、問題解決を行うことを通じて、実践的な実務能力を育てる」②国際化する社会の中で地域を捉え、広い視野をもって現代社会のかかえる問題についての理解を深める能力を

育成する、③幅広い職業生活・社会生活の中で、自分のキャリアを発展的に展開する能力を育成する」という3点を定めている。

②幼児教育保育学科

幼児教育保育学科では「建学の礎」を踏まえ、理想を求め、自覚と誇りを持って自らの役割に責任を持って取り組み、常に自らを省みて向上を図る、自立した人間としての保育者を育成するために、学科の教育目標を「現代の保育に必要な理論や技術を身につけ、共感的な知性と感性に支えられた、人間性豊かな保育者を育成する」と定めている。

(2)総合生活キャリア学科では、実践的な実務能力、地域社会への貢献と問題解決力、自身のキャリアを発展させる能力、また、幼児教育保育学科では、保育理論・技術、共感的な心、人間性と、それぞれの学科がその教育目標において3点に絞って学習成果を定め、教育活動を展開している。

(3)ホームページあるいはキャンパスガイドを初めとする広報誌で、本学の教育理念、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受け入れの方針」とともに、学科の教育目的・目標を学内外に表明している。

(4)毎月行われる教授会・学科会議等で、教育の内容や学生の状況を議論し、学科の教育活動の成果と課題を共有しながら、教育目的・目標の点検を行っている。

(b)【課題】

高校生数の減少のみならず、短期大学を志望する学生の減少、また入学者層の変化に伴い、学生の志望する進路も変化している。柔軟な教育活動の展開と、個々の学生に応じ、個性を生かす教育の創造が今後の課題である。

基準Ⅰ－B－2 学習成果を定めている。

(a)【現状】

「学位授与方針」の中で、具体的に学生が卒業する際に到達すべき学習成果を定めるとともに、幼児教育保育学科では幼稚園教諭免許や保育士資格、さらにはこども音楽療育士資格の取得、総合生活キャリア学科ではそれぞれの学習内容に応じた資格取得、特に全員に対し「実践キャリア実務士」取得を奨励し、実績を上げている。

(1)各学科はそれぞれの教育目標で示した学習成果を受け、学位授与方針の中でさらに具体的に学生が卒業する際に到達すべき学習成果を示している。

すなわち、総合生活キャリア学科では、「広く国際的視野を持ち、生活創造と就業に必要な基礎的知識・技能を習得し、時代を担う有為な人材として自立する力」を幼児教育保育学科では、「子どもの成長・発達を援助するために必要な保育の理論や内容、技術を習得すると共に、社会人として必要な幅広い教養や知識などの基礎的な力」となっている。

(2)各科目の学習成果については、シラバスにおいてそれぞれ項目ごとに量的な基準を定めて明示しており、その評価基準に従って学習成果が測定されている。

具体的には、総合生活キャリア学科では、全国大学実務教育協会認定の実務士資格を始めとする職業にかかわる資格や、関連する科目で展開している推奨資格取得により学習成果を測っている。たとえば、漢字能力検定、秘書技能検定、保険請求事務技能検定、実用英語技能検定、観光英語検定などについて、学生の資格取得状況を量的データとして学科内で把握している。質的データについては、キャリアパスノートや面談記録を活用するとともに、学科行事への参加・協力や授業の受講態度、就職活動状況などについて、学科会議ごとに教員間で確認を行い、認識を共有している。

また、幼児教育保育学科においては、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格、こども音楽療育士の取得状況による量的データの把握は当然のことではあるが、学生一人ひとりの実習評価票や実習日誌、キャリアパスノート、面談記録等によっても質的なデータ把握に努めている。

(3)学内外に対して、各学科ともキャンパスガイドなどの広報誌、学科ニューズレター、学科HP、学科ブログ等で公開している。また、学科ごとの発表の機会としては、総合生活キャリア学科では課題解決演習の成果について、ポスター発表を行い、学年末には2学年合同で学科発表会を開催し、課題解決演習、基本演習、各種フィールドワークなどの成果報告を行っている。幼児教育保育学科では、学外実習時に配付する学科ニュースに学生の成果をのせ配付するとともに、「わくわくフェスティバル」において総合的な表現活動を公開している。

学習成果の点検については、学生個々の課題や学科全体の問題について学科会議で取り上げ、FDを行い、問題の共有化と解決方法について議論している。特に、年度終了時には、1年間の学科活動を総括して学習成果を点検し、課題は次年度の活動方針に盛り込むよう、PDCAサイクルをモデルとした改善を考慮している。

(b)【課題】

総合キャリア学科では、全国大学実務教育協会が認定する、実践キャリア実務士資格を全員に取得推奨、他、秘書士、ビジネス実務士、情報処理士、プレゼンテーション実務士などの取得を奨励したが、資格取得が目的になり、それに向けた学びや、取得後の知識・スキルのメンテナンスに目が向きづらい状況を作ってしまった。あくまで、学びの成果、証明であることを認識させる指導の工夫が課題となる。

幼児教育保育学科では、ほとんどの学生が幼稚園教諭・保育士の免許・資格を取得することを目指している。しかし学生の多様化に伴い、学習の過程において免許・資格の取得を希望しない学生もごく少数であるが散見される。途中で免許・資格を取得しない学生に対してどのような目標を提示するのかが課題である。

基準 I－B－3 教育の質を保証している。

(a) 【現状】

法令の変更については、事務局が責任を持って把握し、教学部門へ指示・連絡を怠らずに行っている。また、教授会、運営委員会、各学科・専攻会議、自己点検・評価委員会などが、学習成果を点検し、PDCAサイクルに則って、教育活動の改善を図っている。

(1)学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などについては、事務局が責任を持って把握し、教学部門の教務部・学科へ密に指示・連絡する体制が整っている。

(2)文部科学省大学教育・学生支援推進事業「学生支援推進プログラム」採択により、平成 21 年度から、キャリアパス・学習支援センターを中心として、キャリアパスシステムの活動を継続的に実施してきた。センター再編・統廃合により、キャリアパスセンターの機能は各学科の中に移行したが、学科の特性を考慮したより柔軟な方法で、学生の指導に当たっている。各自が自分の学びの記録を行うためのキャリアパスノートは、教育課程上に示された科目の履修・修得状況や、全国大学実務教育協会の認定する資格取得状況、就職状況などと合わせて、学生自身が能力把握をするためのツールとして、また、キャリア教育活動の支援として活用されており、学生の自立的なキャリアパス構築による教育内容の保証を目指している。

また、教育の質を保証するアセスメントの一つとして、授業評価を実施している。教員 1 人について 1 科目の実施とし、教員のコメントとともにホームページに公開している。専任教員・非常勤講師について、科目が開設されている学科別の評価の抜粋は下記のとおりである。学科ごとにややばらつきはあるものの、総じて、授業はわかりやすく、教員の熱意があり、知識や技能が身に付いているとの評価を得ている。ただ、学生評価に頼らず、授業公開やFDなど専門的な視点からのピアレビューを組み合わせ、客観的に問題点を把握して授業改善を図ることが昨年度からの課題と言える。

また、授業の改善については、授業評価やアンケートに基づいた学科検討会、FDにおいて改善方法の協議を行った。

学科の学習成果の査定については、教授会及び運営委員会において、成果が顕著な場合や課題が明らかになった場合はその都度、それ以外は年度の終了時に報告や審議の形で行っている。また、改善委員会（現：自己点検・評価委員会）により、自己点検・評価報告書の作成と内容の検討を図り、短大全体の学習成果を査定し、課題を焦点化し解決の方策を検討している。

資料 I－B－3－1 平成 27 年度授業評価抜粋

(はい→いいえ 5 段階評価)

	総合生活 キャリア学科		幼児教育 保育学科		専攻科 幼児教育専攻		短期大学 全 体	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業はわかりやすいか	3.9	3.6	4.0	4.2	4.5	3.6	4.0	4.0
教員の熱意はあるか	4.2	4.0	4.4	4.4	4.7	3.9	4.3	4.3
知識や技能は身についたか	3.8	3.6	4.0	4.2	4.6	3.6	4.0	4.0
総合的にこの授業に満足しているか	3.9	3.7	4.1	4.2	4.6	3.7	4.0	4.1

(3) 毎年度末の教授会における学科活動報告と審議、それを受けて検討される翌年度の活動計画の表明が、本学での教育活動の P D C A サイクルを形成している。また、上記に示したように、課題が明らかになった場合は、運営委員会や改善委員会（現自己点検・評価委員会）が適度に介入し、活動計画の変更や改善などについて審議し、P D C A サイクルを補強している。

(b) 【課題】

各学科の自己点検・評価の取組を共有し、議論を深めることが今後の課題である。学生の成長を一層点検、把握し、具体的な教育活動に反映させて、短期大学部の振興を図っていききたい。

基準 I－C 自己点検・評価**(a) 【要約】**

自己点検・評価については、「札幌国際大学自己点検・評価規程」で定め、規程に沿って自己点検・評価委員会によって実施されている。学科においても自己点検および改善を行っているが、自己点検評価委員会ではそれらを含め、本学で行われている教育活動全体を俯瞰し点検しているところである。

(b) 【改善計画】

学科で行われている改善と有機的に関連させ、より効果的な P D C A サイクルとすることが今後の課題である。点検・評価で顕在化した課題について、学科別、および学科合同 F D でより一層議論していきたい。

基準Ⅰ－C－1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している。

(a)【現状】

自己点検・評価委員会を設置し、毎年自己点検・評価を行っている。

(1)自己点検・評価のための組織としては、全学的に自己点検・評価委員会を設置し、本学の教育活動全般について自己点検及び評価をし、改善の提言をすることとしている。規程については、「札幌国際大学自己点検・評価規程」で定めている。

(2)学科においても教育活動全般について課題点を確認し、学科会議等で共有し改善点を次の計画に反映させるなど、PDCA サイクルが定着している。

(3)自己点検・評価委員会では中期的な目的である第3者評価の準備としてその年度の活動を評価していくという役割と、短期的な目的として現状の教育について点検し改善に結びつける役割を果たしている。具体的には自己点検評価委員会で各学科・各部などすべての教育活動について点検し、報告書として学長に提出する。その後、学長から各学科に改善計画を提示し、改善に取り組む。その内容については教授会において議論している。

(4) 自己点検・評価報告書は、改善を目的とした報告書は毎年、第3者評価の準備とし資料等も含めた報告書は隔年で発行し公表している。自己点検・評価報告書で明らかになった課題については、自己点検・評価委員会でまとめ教授会で報告しているほか、学科で解決に向けた取り組みを行っている。

(b)【課題】

自己点検・評価をよりPDCAサイクルに反映させるよう、学科会議、各部会、教授会、FDなどを有機的に連携させることが今後の課題である。

基準Ⅰについての特記事項

特になし

【基準Ⅱ．教育課程と学生支援】

(a)【要約】

本学は、建学の精神に則り、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針の3つの方針を定め、ホームページ、キャンパスガイド、受験者向けパンフレットなどで公開するとともに、授業公開、FD、学科会議、教授会やAO面談などで内容を確認し、目標の達成を目指している。学習成果は資格取得、社会人基礎力の成長度、単位認定状況や就職内定状況などを総合的に評価している。

学生支援は、アドバイザーを中心に、学習支援・生活支援・進路支援を行っているが、

それぞれ教員を中心とした組織である教務部、学生部、キャリア支援部、また事務局の組織である教務学生課とキャリア支援センターがよく連携し、協力しあって成果を上げている。

(b)【行動計画】

本学は実学・実務教育を中心に据えて、教養教育・専門教育・キャリア教育を総合的に展開してきたが、入学者の減少により、英語コミュニケーション学科が平成 25 年度末廃止となったことから、建学の精神に則りながら、「入学者受け入れの方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「学位授与の方針」を受けた学習成果のアセスメントを一層明確にし、個性的で受験生にわかりやすくより身近な教育活動を創造することを心がけている。

また、多様な学生が入学してくることから、授業の改善と指導力の向上、アドバイザーとカウンセラーが連携したメンタルケアの充実、教員と職員が協働して行うキャリア支援の推進など、PDCAサイクルに従い今後さらに改善を図っていきたい。

基準Ⅱ－A 教育課程

(a)【要約】

(1) 本学 3 学科は、建学の精神に則りそれぞれ学位授与の方針を定め、学生が卒業時に到達すべき学習成果を示している。また、この学位授与の方針に対応して、教育課程編成・実施の方針を定め、ホームページなどで公開している。

(2) 目標とする学習成果を達成するため、学生にも内容がわかりやすい科目が配置されている。特に、2 学科共通の「教養科目」では社会人に求められる基本的能力を育成するため、「基本」「言語・発表」「情報」「キャリア」の 4 分野に区分して、対応する科目を設置している。

(3) 学科の到達すべき学習成果を基礎として、それぞれ入学者受入の方針がホームページ、キャンパスガイド、入試要項などに示され、入学希望者へのアドバイスやAO面談などで、高校生が望んでいる学習と学科の学習の内容が一致しているか確認するのに役立っている。

(b)【改善計画】

平成 28 年度より 2 学科ともに新カリキュラムをスタートさせるが、継続して、時代の要請に対応した学科の教育課程の不断の見直しをするとともに、「入学者受け入れの方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「学位授与の方針」を一貫して繋ぐ学習成果とそのアセスメントを一層明確にしていきたい。

基準Ⅱ－A－1 学位授与の方針を明確に示している。

(a) 【現状】

各学科では、学位授与の方針をそれぞれ定め、公開している。

(1) 本学は、下記のように短期大学部の学位授与方針を定めるとともに、学科ごとに学位授与方針を定め、学生が卒業するときに到達すべき学習成果を示している。

本学は、開学以来、理論を学ばせるだけではなく、実社会に出て役立つ力を育てることに主眼を置いている。そのため、北海道の理解を含む幅広い教養と学科の専門科目による学習を基礎として、体験的な学習や参加型の学習の授業を多く設定し、表現力やコミュニケーション能力など社会人として有用な基礎力・態度を習得させることを主眼としている。短期大学部の学位授与方針は以下のとおりである。

札幌国際大学短期大学部学位授与方針

札幌国際大学短期大学部は建学の礎に基づき、本学で学ぶ学生すべてに、すすんで地域社会に貢献し、その活躍が広く社会で認められる人材の養成をめざし、専門的な知識・技能の獲得とともに、多様な人々と協働する社会人としての基礎力・態度を修得することを求める。

本学の教育は、北海道の理解を含む幅広い教養と学科の専門科目による学習を推進する。アドバイザーを中心に全教職員が一人ひとりの能力と個性を尊重し、学習モデルを提示して履修相談に応じ支援する。体験的な学習と参加型の授業によりコミュニケーション能力を育成し、日本語やプレゼンテーションの学習による表現力を養成すると同時に、社会人として有用な資格取得に目を向けさせ、学習成果が具体的に把握できる教育課程を推進する。

学生は、必修や選択を含め、教養科目と学科基礎科目、学科応用科目、免許資格科目からの履修・単位認定により、合計 62 単位以上の修得を卒業要件として、各学科により学位を授与する。

また、この短期大学部の学位授与方針を受けて、各学科は、社会人としてふさわしい教養・知識・技能の獲得を共通の目標としつつ、それぞれの教育活動の特性を生かし、次のように学科ごとの学位授与方針を定めている。

①総合生活学科：短期大学士（総合生活）

広く国際的視野を持ち、生活創造と就業に必要な基礎的知識・技能を習得し、次代を担う有為な社会人として自立する力を身につける。

②幼児教育保育学科：短期大学士（幼児教育）

子どもの成長・発達を援助するために必要な保育の理論や内容、技術を習得すると共に、

社会人として必要な幅広い教養や知識などの基礎的な力を身につけることを学位授与の基準とする。

(2)各学科の学位授与方針は学則では規定していないが、ホームページや入学案内に関する各広報誌などで表明している。また、学科が教育課程を編成する際に学内に周知し、学位授与の目標や基準に沿うように教育活動を計画している。

卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件などについては、学則で定めホームページ上で公開している。また、在学生に対しては、Study Guide に明示し、入学時などのオリエンテーションで詳細に説明している。

また、「建学の礎」に示された3つの教育的指針である、自由を愛する自立した人間、地域に貢献する人間、国際的な視野を持つ人間の育成に基づき、それぞれの学科の学位授与方針が作成されており、建学の高い教育理念に基づきながらも、その成果の評価が可能な具体性・客観性を有している点で、社会的・国際的に通用性があると考えられる。

定期的な点検については、毎年度行われる教育活動報告及び自己点検・評価報告書の作成において、また学科会議や教授会、FDなどで実施している。

(b)【課題】

入学者層の変化に伴い、学生の志望する進路も変化し、学生が身につけたいと望む力も変化している。そのうえで、学生に対し、学位記授与方針を理解させ、それを踏まえた目標を立てさせるための指導を工夫することが、今後の課題である。

基準Ⅱ－A－2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している。

(a)【現状】

本学では、建学の精神や学位授与の方針などに則り、教育課程編成・実施の方針を定めている。その主旨は、学ぶ楽しさや表現する喜びを体現させ、真理を探究する心・豊かな心を育みながら、社会人としての基礎力を身に付けさせるということである。

(1)札幌国際大学短期大学部は、下記のように建学の精神や学位授与の方針に則り、教育課程編成・実施の方針を定めている。一人ひとりの個性を尊重し、その興味・関心に応じた学習活動を展開し、学ぶ楽しさや表現する喜びを味わわせながら、真理を探究する心を育てること、その学習活動を通じて自由で社会的に自立した個人を育成することがその根幹である。

教育課程編成・実施の方針

学ぶ楽しさや表現する喜びを実感する機会を提供し、真理を探究する心と豊かな感性を養う。それとともに、良き社会人としての基礎力・態度を身につける実務教育を、教育課程全体に一貫させる。

○学ぶ楽しさの実感と、真理を探究する心の育成

講義による理論解説・事例紹介と実習・演習による技能習得・現場体験の関連性を明確に示すことにより、学習が役に立つことと学ぶ楽しさを実感させる。

○表現する喜びの実感と、豊かな感性の育成

研究発表会・卒業研究など、それまで積み上げてきた学びの成果を自由に表現する機会を通して、豊かな感性を育てる。

○良き社会人としての基礎力・態度の習得

地域社会で多様な人々と協働する社会人を育成するため、キャリア形成の目標の明確化と、ビジネスマナーの習得を重視する。

○短期大学生としての基礎的な学力の習得

初年次から日本語表現と論理的思考の能力向上に取り組み、短期大学生としての基礎的な学力を習得させる。

(2)各学科・専攻課程の教育課程は、下記のとおり、学習成果に対応した、わかりやすい授業科目を編成している。

①総合生活キャリア学科

学位授与方針を具現化するために、「教養科目」、「基礎科目」、「応用科目」に区分し教育課程を編成している。「教養科目」では社会人に求められる基本的能力を育成するため「基本」「言語・発表」「情報」「キャリア」の分野に区分し、対応する科目を設置している。また「基礎科目」では現代社会を理解し主体的に生活を創造する能力の育成を目標とする科目を設置し、「応用科目」では自立した生活者、職業人に求められる専門的能力の育成を目標とする4つの分野からなる科目を設置している。

②幼児教育保育学科

学位授与方針を具現化するために、教育課程を「教養科目」と「専門科目」とし、「教養科目」では社会人としての基礎的な力を身に付けるための「基本」「言語・発表」「情報」「キャリア」に関する科目を設置している。また、「専門科目」では保育の理論や内容、技術を習得するために「教育・保育の理論」「子ども理解」「保育の内容・方法」「基礎技能」「実習」に関する科目を設置している。

なお、教育課程編成の構造は下記のとおりとなっている。

資料Ⅱ—A—2—1 カリキュラム構造図

総合生活学科		幼児教育保育学科	
教 養	基本	教 養	基本
	言語・発表		言語・発表
	情報		情報
	キャリア		キャリア
基礎科目		専 門	教育・保育の理論
応用科目			子ども理解
			保育の内容・方法
			基礎技能
			実習

また、総合生活キャリア学科ではコースを定め、それぞれ「基礎科目」「応用科目」群でコース科目を指定し、学習の目標や内容に秩序を持たせて学習を行うように指導している。コースは下記のとおりである。

資料Ⅱ—A—2—2 学科のコース構成 [総合生活キャリア学科]

総合生活キャリア学科	総合生活
	オフィスキャリア
	生活実用英語

(3) 上記の科目編成やそのねらいとする学習成果を明確にするために、科目の関連性や教育課程上の区分・分野別のねらいを、昨年度までは Student Handbook やキャリアパスノートを活用し、入学時や学期開始時のオリエンテーションなどで周知している。

また、シラバスには、各科目の目的及び概要、講義方法、授業計画、到達目標、試験方法・成績評価方法、テキスト・参考文献、準備学習、その他、さらに、関連する実務士資格が示されている。

各科目の成績評価については、シラバスに科目毎に詳細な評価基準を示しており、その評価基準に従って学則どおり厳格に成績評価がなされている。また、各科目では、毎回の授業でのノートや感想等も重視し、学生の育ちを質的に捉えられるように努めている。

各科目での評点、成績評価、GP の関連は次の表のとおりである。

資料Ⅱ—A—2—3 評点、成績評価、G P 対照表

評点	成績評価	G P
90～100	優+	4.0
80～89	優	3.0
70～79	良	2.0
60～69	可	1.0
0～59	不可	0.0
出席不足等	失格	0.0

また、各学科別の GPA の平均は下記のとおりである。GPA の数値は、各科目が単に学生の能力だけではなく、その意欲や態度を積極的に評価していることから、各科目を担当する教員の、学生に対する指導力の一端も反映していると考えられる。学生がしっかり学習に向かい、各科目の目標に到達するように努力するよう、さらに指導力を高めることが必要である。

資料Ⅱ—A—2—4 平成 27 年度 学科別 GPA 平均

学科	前期	後期
総合生活キャリア学科	2.4	2.3
幼児教育保育学科	2.7	2.8

(4)教育課程に設置されている科目の目的、内容、方法に照らし、教員配置は適切に実施されている。また、教育課程の見直しは、毎月の学科会議での情報交換や学生の声、実習・就職現場からの評価や、学科会議・FDなどの議論、科目毎の受講者数や成績評価の状況などの学期毎の情報などに基づいて検討を行っている。各学科ではそれぞれ、科目の内容や方法、期別配置、必修科目の変更などが議論されている。

(b)【課題】

教養科目と専門科目でバランスの取れた人材育成を図るとともに、本学の充実したキャリア科目と教養・専門科目との連携を一層深め、優れた社会人を輩出するよう努力したい。また、多様な学生にも学習意欲を持たせる強い指導力を目指すことが必要である。

基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している。

(a)【現状】

各学科では、建学の精神、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針に呼応して、入学者受け入れの方針を定めている。入学者受け入れの方針や教育課程編成・実施の方針は、

ＡＯ面談などでもエントリーした高校生に確認し、本学へ志望する意欲や抱負などを確かめる参考としている。

(1) 札幌国際大学短期大学部は、下記のように建学の精神や学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針に則り、入学者受け入れの方針を定めている。

①総合生活キャリア学科

- ・ 自立した職業人を目指し、職業知識と実務能力を身につける意欲のある人
- ・ 現代生活において、自由で主体的に生きるための豊かな知識と教養を身につける意欲のある人
- ・ 国際化する社会で自己を豊かに表現し地域と積極的にかかわる意欲のある人

③幼児教育保育学科

- ・ 「よき保育者になりたい」という“志”を持つ人
- ・ 保育者として求められる知識や技能を、自らの努力及び仲間との協同を通して身につけていこうとする人
- ・ 子どもの健やかな成長・発達を援助する保育者としての責任と使命を自覚し、よりよい保育者を目指して自らの人間性や資質・能力を高め続けることができる人

(2) 入学者受け入れ方針は、入学者に対してそれぞれの学科の受け入れ方針を詳細に明示しているので、入学前の学習成果を調査書や入学願書等で判断することや、学校推薦・ＡＯの面接における口頭での質問の際にも有効である。特にＡＯ面談においては、各学科の入学者受け入れ方針の具体的な項目について尋ね、入学の目的や入学後の抱負を確認している。

(b) 【課題】

多様な学生の入学と、時代の要請の変化に対応するよう、入学者受け入れの方針が、卒業時に具現化しているか、学習成果とそのアセスメントを一層明確にすること、また、学生自身にそれを常に意識させ、目標に向けた学びの計画、実行を促す教育方法の工夫が課題である。

基準Ⅱ－Ａ－４ 学習成果の査定（アセスメント）は明確である。

(a) 【現状】

幼児教育保育学科では幼稚園教諭二種免許及び保育士資格を卒業生のほぼ全員が取得するとともに、総合生活キャリア学科では、学科の学習内容に応じた資格取得を奨励し、実績を上げている。また、キャリア科目を充実し、教養と基礎力を身に付けた社会人の養成を図っている。

(1) 学科の現状

①総合生活キャリア学科においては、学科の必修・選択科目指定に加え、コースごとに履修しなければならないコース専門科目を設定し、学生が具体的に目標を設定することが

可能になるよう配慮している。また、それぞれが希望する進路に即した資格取得を目指せる科目を設置し、明確な学習成果が得られるよう指導している。その結果、漢字能力検定、保険請求事務技能検定、ファイナンシャル・プランニング技能士や秘書検定、実用英語技能検定、観光英語検定などの資格や、全国大学実務教育協会が認定する実践キャリア実務士およびその他実務士資格などの取得において成果を上げている。

このように、コース毎に達成すべき学習成果を明示し、特に社会人・職業人として有用な実地的な学習内容を展開していることから、本学の教育課程は実地的な価値に基づいた学習成果を設定していると言える。

②幼児教育保育学科においては、教育課程の学習成果を、育てたい資質・能力として具体化しており、学生に明示している。また2年次科目であるキャリア基礎演習では、すべての学生が保育士模試を受けており、それまでの学習成果が客観的な視点で明らかになる。具体的な学習成果としては、ほとんどの学生が幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得して卒業しているという事実によって示されている。

（２）資格

資料Ⅱ－Ａ－４－１は、この２年間で教務学生課が申請を取り扱った資格・免許状と、それを取得した学生数の一覧である。幼児教育保育学科・専攻科において、幼稚園第２種・第１種免許や保育士の取得率が高いこと、総合生活学科・英語コミュニケーション学科においては、全国大学実務教育協会の資格を多く取得していることがわかる。

資料Ⅱ－Ａ－４－１ 資格・免許取得者数（人）

		幼稚園教諭 ２種免許	幼稚園教諭 １種免許	保育士資格	図書館 司書資格	園芸療法士
平成 26年度	学科	幼児教育保育	専攻科	幼児教育保育	総合生活キャリア	総合生活キャリア
	取得者数	146	8	151	2	2
平成 27年度	学科	幼児教育保育	専攻科	幼児教育保育	総合生活キャリア	総合生活キャリア
	取得者数	127	1	136	3	0

全国大学実務教育協会資格（人）

	資格	上級 秘書士 [㊦]	上級秘書士 (メディカル秘書) [㊦]	情報処理士 [㊦]	ビジネス 実務士	実践キャリア 実務士	保育音楽 療育士	こども音楽 療育士
	学科	総合生活 キャリア	総合生活 キャリア	総合生活 キャリア	総合生活 キャリア	総合生活 キャリア	専攻科	幼児教育 保育
平成26 年度	取得 者数	11	4	8	6	35	3	33
平成27 年度	取得 者数	4	6	5	3	44	1	28

このように、本学においては、教育課程の学習成果を、単位の取得状況、免許・資格の取得、就職内定率等から具体的に測定し、改善を図っている。

(b) 【課題】

下記資料Ⅱ—A—4—2は、学生アンケートにおける、「本学の教育で身に付いた（または身に付きそう）と思うもの」の回答結果である。専門知識を学び視野が広がり、社会的常識やコミュニケーション能力が身に付いたとする者は多いが、反対に、自ら進んで考え問題を解決したり、地域に貢献したりする意欲が十分身に付いていないように思われる。与えられた学習に取り組むばかりではなく、自ら課題を見極めて課題解決を図る、主体的な課題解決学習に一層取り組む必要が感じられる。

また、これらの社会人基礎力の養成と、資格取得の状況や単位認定状況、就職内定状況などを総合的に点検・評価し、学科で育てたい人材を一層焦点化することが今後必要である。

資料Ⅱ—A—4—2 本学の教育で身に付いた（または身に付きそう）と思うもの（複数回答）

社会人としての一般常識や基本的なマナー・態度	仕事に必要な専門知識や技能	視野を広げ、物事を広く考える力	対人関係を円滑にするためのコミュニケーション	自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら解決する力	自分の考えを分かりやすく表現する力
49.5%	47.9%	47.3%	43.8%	26.8%	25.6%
パソコンやインターネットを使いこなす力	グループ活動で先頭に立って行動する力	道筋をたてて物事を考える力	進んで地域社会に貢献する態度	自らの興味関心に応えて、進んで読書をする習慣	特になし
24.3%	20.5%	20.2%	9.5%	9.1%	7.9%

基準Ⅱ－A－5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。

(a) 【現状】

両学科とも、卒業生と可能な限り連絡を取り、様子を確認するほか、就職内先から本学の卒業生についてのコメントを頂いている。

総合生活キャリア学科では、卒業生を呼び、在学生と交流させる講演会の機会を積極的に設けるほか、卒業生自身が、状況報告や相談に来学してくれる機会が比較的多い。短期大学での学習で獲得したもの、獲得しなかったもの、卒業後に役に立っている成果、卒業後に不足していると思われる知識や技能などを、そのような機会に卒業生に確認し、記録を残している。また、その結果について、学科会議、FDなどで発表・議論をし、授業の中で扱えるよう工夫し、本学の教育活動の改善に結びつけるよう努めている。また、企業訪問などの際に、卒業生の状況を把握し、ヒアリングした企業の状況や求める人材などの情報を、学科会議で共有するほか、キャリア関連科目で学生にフィードバックしている。

幼児教育保育学科においては、毎年6～7月に札幌市内の就職先を訪問して、卒業生の評価を聴取している。また、保育所及び施設、幼稚園における実習巡回指導の際にも、必要に応じて卒業生の勤務状況について聴取している。さらに、毎年開催される私立幼稚園連合会との会議に、学科長とキャリア支援担当教員が参加し、卒業後の状況について話を聴いている。聴取した結果については学科会議で共有し、課題を教員全員が共有するとともに、改善策について議論し、その結果をその後の教育に生かすようにしている。

(b) 【課題】

本学の卒業生は明るく元気で、協調性もあるが、反面、自立心、リーダーシップ、基礎学力（計算など）に欠けるところがあるという、自己評価や企業からの評価が多い。学生が自分で企画・運営・評価するような教育活動を展開すること、基礎学力面を補強すること、本学のすぐれた教育活動であるインターンシップをより有機的に教育活動と連動させることが今後の課題である。

基準Ⅱ－B 学生支援

(a)【要約】

(1)教員は学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、授業評価を前・後期末に実施するとともに、定期的にFDを開催し、当面の課題について議論を深めている。また、事務職員は定期的に行われる事務局管理者会議や職員研修会を通じて事務処理の改善、情報の共有化を図り、所属部署の職務を通じて学生の支援を行っている。

(2)各学科はアドバイザー制度により、学習上の悩みを抱える学生や進度が速い、また遅い学生への相談に当たっている。また、学生の生活支援のための教職員の組織を整えるとともに、健康管理やメンタルヘルスをケアする人的配置や施設の整備を行っている。

(3)進路支援のため、キャリア支援センターでは、教員と職員が協働して、学生の相談・指導に当たっている。また、入学希望者に対しては入学支援部と入学課が入学者受け入れの方針を明確に示し、受験の問い合わせなどに適切に対処している。

(b)【改善計画】

多様な学生の入学に伴い、授業の充実、入学制度の見直し、学習支援や生活支援の充実、キャリア支援の充実など、それぞれに課題があり、より一層の改善が求められている。全体として教育活動の改善を一つ一つ図るとともに、一人一人の学生について、その学生の課題を明確に捉えて、アドバイザーを中心に一層支援していきたい。

基準Ⅱ－B－1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。

(a)【現状】

専任教員全員による授業公開や授業評価により、多様な学生に対する授業改善に努めるとともに、事務職員は学習成果の獲得を支援するよう、教員と連携しながら学生へのアドバイスや事務処理に当たっている。また、図書館やパソコンなどの設備についてのガイダンスや支援を積極的に行い、学生に施設設備の活用を奨励している。

(1)教員は、学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。

①各学科においては、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則り、各科目について授業の目的、到達目標、成績評価方法をシラバスで明示しており、これに即して学習成果を評価している。また、個々の学生の学習成果の状況は、学内LANで常に把握できるようになっており、迅速で適切な指導が可能である。

②学生による授業評価は各学期末に実施され、その結果をホームページ上で公開している。ただし、現在、授業評価は教員一人につき各期1科目のみの実施に止まっている。

また、学生による授業評価の結果は、自由記述欄とともに各評価項目の5段階評価をグラフで表したものが教員に返還されている。

教員は授業評価の結果についてコメントをホームページ上で公開するシステムとなっており、授業改善の良い機会となっている。

③専任の学科教員全員が授業公開を行い、相互に参観しコメントを寄せている。また、新任の教員の授業など、必ず学科で授業検討会の対象とする授業を定め、基本的に学科の全教員が参観し授業の改善策について議論したり、共通で指導すべきことの確認をしている。共同授業の担当者間で授業開始前に必ず会議を設定し、授業の目的や方法、到達目標の確認をするとともに、幼児教育保育学科ではカリキュラムにかかわる会議を設け、実習と他の科目間や関連する科目間で、到達目標や授業計画を共有し、それを踏まえて授業を進めるよう科目間連携を行っている。

また、授業公開後の教務部主催FDでは、共通の課題などについて議論し、教育方法の改善に努めている。

④学科会議において、単位の取得及び成績の状況、実習の評価、資格の取得状況、就職状況等により、学科の教育目的・目標に対する達成状況を確認・評価している。また、必要な場合は改善の方策を議論し、実施に努めている。

さらに、学科の教務担当教員を中心として、年度当初のオリエンテーション、個人面談、その他日常的に学生指導の機会をもち、履修及び卒業にいたる指導を行っている。特に、年度当初の個人面談においては、新入学生に学習や学生生活への適応度を聴取し、すみやかに本学に順応するよう的確なアドバイスに心がけるとともに、2年次については、卒業に向けての履修指導や就職活動の支援を行っている。

(2)事務職員は、学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。

①教務学生課では、学生の単位の修得状況や成績評価をはじめ、実習の評価、資格の取得状況等のほか、休学や退学等の学籍異動についてもその実数を把握している。

②毎年、文部科学省・日本私立短期大学協会主催等の外部研修には、事務職員を積極的に参加させ、研鑽を図っている(27年度参加実績 延べ13人)。日常的には、各担当部署ごとに行うミーティングを通して学生に関する諸問題を取り上げ、また、定期的開催する事務局管理者会議や職員研修会を通じて情報の共有化を図ることによって学生支援の充実に努めている。

③教務学生課では、学期ごとに学生の単位修得状況や履修登録状況を確認し、学生からの履修相談に応じている。また、卒業や資格取得に関する問題を抱えた学生については、教員と連携しながらその解決に当たっている。

(3)教職員は、学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。

①図書館では、学生の教育に不可欠な図書館資料を計画的に収集するとともに、各学科からの推薦図書の整備、学生のリクエストにも対応するなど、利用者に配慮した方針の下、資料の収集に努めている。また、各種コーナー等の企画・展示、レファレンス業務、文献検索ガイダンス等の利用者教育の実施、書評コンテストを実施するとともに、ホームペー

ジでは、文献を探したりものごとを調べたりするために便利な約 60 サイトとリンクさせるなど、学生の学習向上のために支援を行っている。一方、ここ数年の図書館利用者の減少傾向が課題であり、その対策として、ベスト本等の一般図書や DVD 等の映像資料の充実、ホームページによる最新情報の発信、学習支援ツールとして信頼性のあるデータベースの導入を通して、学生にとって親しみのある図書館作りに工夫を凝らしている。

また、教員は、レポート課題の提出に当ってインターネットに頼らず図書館資料を参考に提出させたり、ゼミ単位で文献検索ガイダンスに参加するなど、教員と図書館が連携して図書館利用を推進している。

②平成 10 (1998) 年度に開設した情報教育センター (全学共有施設 : 4 階建て 1,782 m²) には、パソコン教室 6 室に 198 台、語学演習室 3 室に 70 台、コンピュータ演習室に 10 台のパソコンが設置されており、情報関連授業等で活用している。これらの教室は、授業の空き時間には、自習室として利用できる他、学生が自由に利用できるパソコンが情報教育センターのパソコン自習スペースに 27 台、1 号館 4 階のアクティブラーニングルーム 1 に 9 台、5 号館 2 階のアクティブラーニングルーム 2 に 3 台設置されており、学生に対する情報環境基盤が整えられている。通常教室については、1 号館の全講義室 6 室に情報コンセント (有線 LAN) とプロジェクター接続用端子、2 号館の講義室 11 室に情報コンセント (有線・無線 LAN) とプロジェクター接続端子及び 6 号館の講義室 7 室にプロジェクター接続端子を備えており、パソコンを接続してインターネットやデジタルコンテンツ資料等の提示に利用している。

また、平成 27 年 9 月には、1 号館 2 階学生ホール、2 号館 2 階ホール、総合情報館 2・3 階図書館、総合情報館 3 階レストラン、総合情報館 4 階ラウンジ及びカフェテリアなど学生が多く集まる場所に無線 LAN スポットを設置し、学生が自由にインターネットに接続し、資料・情報の取得が可能となった。

③現在の大学において、きわめて有効な広報手段であると考えられるホームページのコンテンツ管理は、各学部、学科、事務局等、それぞれの所管部署で各担当者が最新の情報を各自のパソコンからリアルタイムに追加更新できる仕組みを構築している。

なお、本学の基幹業務システムでは、学生情報、教員情報をコアとするデータリソースにより連携しており、法人、管理及び学務でシームレスなデータ処理や学生情報 (基本、履修、出欠席、成績等) の閲覧等の情報サービスを各自のパソコンで実現することができる。

また、学内の教職員ポータルサイトには行事予定や連絡事項を掲示するシステムを構築しており、学内情報の共有化を図っている。

④学内 LAN やコンピュータの活用の促進については、学生に対して、入学時にパソコン利用のための学内アカウント及びメールアドレスを与えており、授業や自学自習、学内外情報等の収集等で活用しているとともに、情報教育センターにある研究室 2 室では教員が日常的に学生の学習支援をしている。

なお、メールシステムには、Gmail を採用しており、学内だけでなく学外からもアクセ

スできる仕組みを構築していると同時に、Gmail において、携帯電話等への転送設定を推進しており、大学からの重要事項等の連絡に利用している。

また、学内外の学生ポータルサイトからアクセスできるWeb学生支援システムでは、学生自身の登録情報（履修、授業出欠席、成績、住所等）や求人情報の閲覧及び履修申請や進路調査票等の登録を速やかに行うことができる。

⑤情報教育センターでは、アプリケーションソフトの操作方法や活用方法、学内 LAN におけるパソコンの設定方法やトラブルシューティング等を学内ホームページで積極的に発信して、コンピュータ利用技術の向上に寄与している。

(b) 【課題】

事務局で把握した、単位の修得状況、成績の評価、インターンシップなどの評価、資格取得状況、また休学や退学の状況等、多くのデータを統合的に関連させ、個々の学生の伸長度や全体としての学習の成果などを把握することが今後の課題である。

基準Ⅱ－B－2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。

(a) 【現状】

アドバイザーを中心に、シラバスやCampus Guide、Study Guideを用いて、オリエンテーションや個人面談などで個々の学生への履修指導や学習支援を行っている。また、短期・長期の海外語学演習制度を整え、そのうち短期海外研修はほぼ毎年実施している。

(1)学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、入学式の直後にオリエンテーションを行い、短期大学における目標、学習の方法、科目の選択、履修方法などについて詳しく説明をしている。また、4月中旬にも宿泊研修を実施し、学科の教育目標を説明するとともに、コースに応じた履修モデルを参考にして2年間を見通した履修について、上級生のサポートを得て研修させている。また、各学期の最初にもオリエンテーションを実施している。

(2)学習支援のための印刷物として、Study Guideと学びの技法を作成している。1年次の入学当初にはこの2つの印刷物を携帯させ、Web上で公開しているシラバスとあわせて機会あるごとに内容を確認させている。また、宿泊研修ではキャリアパスノートにしおりを綴じ込み、研修の流れ、意義を把握するとともに2年間の学習を計画。それを見て自ら考え、行動できるようにするなどの工夫をした。

(3)学科学生を担当する各アドバイザーが、出席状況や受講態度についての情報を学科会議や日々の連絡等で共有しており、授業についてゆくことが困難になりそうな学生に対して、早期に面談や補習、助言を行っている。

(4)各アドバイザーが定期的に面談を行っており、学習についての相談や助言を行ってい

る。また各教員がオフィスアワーを設定し、授業の質問や相談について受け入れる体制を取っている。また、特に、幼児教育保育学科では、学習や生活、実習で課題を抱える学生については、個別の指導計画を作成し、複数の教員が協同で対応するよう組織化して取り組んでいる。

(5)学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、進度の速い学生や優秀学生に対し、各学科では、下記のような配慮や学習支援を行っている。

①総合生活学科

進度が速い学生、成績が優秀な学生を教員間で把握し学科会議において情報を共有している。前期において進度の遅い学生に対しては、後期は学科長がアドバイザーを補完する指導を行った。成績が振るわない学生であっても、インターンシップや短期留学へ向かう意欲が湧き、それを実行することで大きな成長を見ることができた。成績不振学生は退学予備軍であることを踏まえ、適宜、教員の体制を変え、少人数での指導を付加することも必要である。

また、成績優秀学生には学科内で表彰を行いその努力を評価することで、さらなる意欲を喚起し、次へ向けての目標を持たせている。成績優秀とともにフィールドワークやインターンシップ等の活動を経験した学生には、オープンキャンパスにおいて、その体験をプレゼンテーションする機会を与えた。本年は担当教員がコンシェルジュの観点で学生を指導をしたが、昨年以上の自主的な発表となり、オープンキャンパスという舞台で確実に学生は力を付けている。

②幼児教育保育学科

進度の速い学生や成績が優秀な学生に対しては、授業内で発展的な課題や図書を紹介したり、学科のプロジェクト活動に誘導し、力を発揮できる場を用意する等の配慮をしている。

(6)総合生活キャリア学科では、1 週間の短期研修（「国際フィールドワーク」）、6 ヶ月までの自主的な海外語学研修、約1年間の東京国際大学アメリカ校における長期留学などの制度を整えている。さらに昭和女子大学ボストン校の1 ヶ月、6 ヶ月の留学制度が加わり一層制度が充実した。27年度の国際フィールドワークには4名の学生が参加し、シンガポールにて研修を行った。しかし、その他の語学学習のプログラムについては、参加する学生がいないのが現状である。

(b)【課題】

アドバイザー制度はよく機能しているが、学習成績の優秀な学生と学習に困難を感じている学生のどちらにも、一層効果的な学習支援システムの構築が今後の課題である。

基準Ⅱ－Ｂ－３ 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。[学生部・教務学生課]

(a)【現状】

学生の生活支援は多岐にわたり実施している。特に、経済的に困窮している学生が多く入学する実態を踏まえ、大学独自の奨学金制度を充実させるとともに、学習や生活面で精神的な問題を感じる学生に対して、カウンセラーを複数配置してカウンセリング機能を充実させている。

(1)学生部は、学生生活支援・学生生活指導に関する方針を立て、年間計画の立案実施、及び危機管理など、学生の生活面に関する施策を実施する組織である。平成 27 年度は短期大学教員 4 人、大学教員 7 人の計 11 人で組織を構成している。また教務学生課の学生担当事務職員 4 人及び保健室職員 1 人と連携して業務を進めている。

(2)学生の課外活動に関しては、厚生補導費から助成金を支給している。また、全クラブ活動の中から 9 つのクラブを強化クラブを指定し、外部の技術指導員を招聘するなど課外活動の充実を図り、クラブ活動の活性化が進んでいる。

下記の資料Ⅱ－Ｂ－３－１は、平成 27 年度の体育系・文化系クラブと同好会に所属している学生数、及びその活動内容を示している。本学のクラブ活動に短大部の学生が積極的に参加し、大きな成果を上げていることがわかる。

資料Ⅱ－Ｂ－３－１ クラブ一覧及び所属学生数・活動内容

平成 27 年度 体育系クラブ一覧

クラブ名		短大	大学	人数合計	主な活動実績（平成 27 年度）
体育系クラブ	女子バレーボール部	5	9	14	北海道バレーボールリーグ出場（春季、秋季）他
	男子バレーボール部	1	11	12	春季、秋季北海道バレーボールリーグ出場他
	バドミントン部	6	14	20	北海道学生バドミントンリーグ戦（春季、秋季）他
	女子バスケットボール部	2	10	12	春季選手権大会、北海道学生バスケットボール選手権大会出場 他
	男子バスケットボール部	1	18	19	春季選手権大会、北海道学生バスケットボール選手権大会出場 他
	ソフトテニス部	—	8	8	全日本学生ソフトテニス選手権大会（全国大会）出場 北海道学生ソフトテニス選手権大会出場 他
	硬式庭球部	1	16	17	北海道学生テニス選手権大会 全日本大学対抗テニス王座決定試合出場他
	競技ダンス部	—	6	6	全北海道学生競技ダンス対抗戦 他
	弓道部	1	9	10	争覇戦出場、講習会参加

クラブ名		短大	大学	人数 合計	主な活動実績（平成 27 年度）
体育系 クラブ	チアリーダー部	4	10	14	コンサドーレ札幌、北海道日本ハムファイターズ公式戦での演舞、学まちプロジェクト参加（札幌市からの依頼により各種イベントへ参加）
	サッカー部	—	18	18	北海道学生サッカーリーグ出場 他
	硬式野球部	1	47	48	札幌学生野球 2 部リーグ戦（春季、秋季）出場 春季トーナメント戦、新人戦出場
	フットサル部	—	14	14	カレッジスーパーリーグ出場 全道大学フットサル選手権大会出場
	YOSAKOI ソーラン部	39	47	86	YOSAKOI ソーラン祭り出場 ファイナル進出（5 位入賞）
	アメリカンフットボール部	2	5	7	大会出場なし 社会人チームと合同練習・合同チームで試合出場
	フリースタイルダンス部	—	6	6	競技会出場 北海学園大学、北星学園大学と合同で活動
	男子ハンドボール部	—	8	8	北海道学生ハンドボール春季、秋季リーグ戦出場
	女子ハンドボール部	1	7	8	北海道学生ハンドボール春季、秋季リーグ戦（春季：1 部優勝）出場、東日本インカレ出場
	氷上部	1	5	6	3 名が V O R T E X 札幌アイスホッケークラブに所属 クラブチームでの活動
	跆拳道（テコンドー）部	—	3	3	全日本テコンドー選手権大会東日本地区予選出場
	卓球部	1	15	16	全日本大学総合卓球選手権大会出場（全国大会） 北海道卓球選手権大会出場 他
	柔道部	—	2	2	北海道学生柔道体重別選手権大会
	陸上競技部	—	9	9	第 15 回道央陸上競技選手権大会 800M6 位入賞（1 名） 第 40 回北海道学生選手権大会 400MH6 位入賞（1 名）
	カーリング部	1	4	5	世界ジュニア選手権大会出場 パシフィックジュニア選手権大会出場 他
	空手道部	—	8	8	国民体育大会北海道予選出場
	札幌国際大学ダンス部	22	—	22	清麗祭でのステージ発表 学まちプロジェクト参加（札幌市からの依頼で活動）
	キックボクシング部	—	11	11	グロブ空手&フルコン新人戦出場 他 他大学との合同練習
	合計	89	320	409	

平成 27 年度 文化系クラブ一覧

クラブ名		短大	大学	人数 合計	主な活動成績（平成 27 年度）
文 化 系 ク ラ ブ	軽音楽部	—	29	29	定期ライブ開催
	漫画研究会	—	18	18	清麗祭作品展示、販売会への出展
	ハンドベルクワイア	—	11	11	外部からの依頼演奏、定期演奏会実施
	ESS サークル	15	—	15	国際交流、サッポロインターナショナルナイト参加
	放送部	—	6	6	NHK全国大学放送コンテスト出展
	考古学研究会	—	25	25	遺跡発掘調査
	吹奏楽部	5	6	11	学位記授与式、入学式演奏 さっぽろライラックまつり演奏、定期演奏会実施
	茶道部	2	2	4	他大学との交流（茶会）
	写真部	3	18	21	清麗祭での写真展示、学内にて写真展示
	あしのうら	11	—	11	子育て支援ボランティア、その他ボランティア活動
	中国研究会	1	19	20	中国語スピーチコンテスト参加、留学生との交流
	博物館研究会	—	25	25	博物館ボランティア活動、学内博物館解説のための講習等
	劇団テアトロ	5	10	15	アトリエ公演、学まちプロジェクト参加（札幌市からの依頼により各種イベントへ参加）
	SIU BBS会	—	2	2	ボランティア活動
	エレクトーンサークル	—	3	3	清麗祭演奏、オープンキャンパスで演奏、定期演奏会実施
	J a z z バンド部	3	9	12	定期演奏会実施、学内演奏会（単独・吹奏楽部と合同）
	スポーツビジネス研究会	1	8	9	各種少年野球大会の補助、フリーペーパーの作成
	韓国文化研究会	—	12	12	清麗祭出展、学内での勉強会など
	SIU エクスプレス	—	3	3	北海道内鉄道、JR体験乗車、清麗祭の展示発表
	綺喜麗楽	—	9	9	ペットボトルキャップ回収リサイクル 地域のボランティア活動
	アカペラアサークル ぱれっと	2	18	20	学内コンサート実施、オープンキャンパス参加
	合計	48	233	281	

平成 27 年度 同好会一覧

クラブ名		短大	大学	人数 合計	主な活動成績（平成 27 年度）
同好会	デジタルメディア研究会	—	3	3	北都商店街のホームページ作成 学生まちづくりコンテスト発表
	ギターサークル	9	10	19	清麗祭での発表
	ARS	7	13	20	バスケットボールサークル
	旅行ビジネス研究会	—	13	13	ツアー計画、実施、国家試験対策の勉強会等
	書道サークル	4	1	5	自由創作・自主活動
	MS（マインドサイエンス）研究会	—	5	5	オープンキャンパスでの展示、学内勉強会など
	水泳同好会	1	6	7	各種大会出場
	メリーゴーランド	—	7	7	ピアノ練習、近隣小学校でのボランティア活動
	札幌国際大学合唱団	8	—	8	学外イベントへ参加 学位記授与式・入学式で国歌、学科斉唱
	SIU ダンス部	—	8	8	清麗祭での発表、各種大会、ダンスイベント参加予定
	Hokkaido Authentic Cuisine	—	11	11	一流のホテル、旅館、レストランなどからおもてなしの心を学ぶ
	剣道同好会	—	6	6	北海道学生剣道新人戦大会出場
	軟式野球同好会 （ライノセラス）	—	7	7	軟式野球大会への出場・近隣の美化活動、地域貢献
	アナログゲーム同好会	—	7	7	カードゲームを利用した心理学実験、他団体との交流会企画
	現代文化研究会	—	9	9	学科との連携、学まちプロジェクト参加（札幌市からの依頼により各種イベントへ参加）
	インラインホッケー同好会	2	9	11	札幌アイスホッケー連盟主催練習マッチ参加
	れんだんず	5	—	5	学内コンサート企画
		36	115	151	

(3)学友会は、本学の学生全員が会員となり、学内団体諸規程及び学友会規約のもとに設置されている組織である。各学科代表委員の選挙によって選出された会長と、その指名による役員で構成されている執行委員会が中心となり、「清麗祭」（大学祭）等の諸行事の企画・立案・実施やクラブ活動に関する支援など、主に学生生活の充実や学生の親睦を図るための自主的活動を継続的に行っている。

(4)学生食堂は、図書館を併設している総合情報館 3、4 階に、またコンビニエンスストアは新設の 2 号館 2 階に設置している。総合情報館の 3 階食堂ロビーや 4 階ラウンジ、2 号館の 2 階ホールは飲食や歓談の場として利用されている。

また、キャンパス中央に位置する 1 号館 2 階には学生ホールが設けられ、さまざまな連絡用掲示板が設置してあることから、学生が集い、自由に歓談できるスペースとして利用されている。

さらに、大学の施設新設、整備に伴う環境整備が進み、多くの樹木に囲まれた屋外にも芝生広場やベンチや散策路などを設置し、札幌市郊外に広がる豊かな自然を堪能できるような場を造成中である。

(5)大学としては下宿・アパート等宿舎の斡旋はしていないものの、当地域では適正に希望者に供給されている。なお、本学では学生寮は保有していない。

(6)本学は札幌市中心部の近隣に位置し、地下鉄、バスの公共交通機関が比較的利用しやすいことと、交通事故の未然防止の観点から徒歩と自転車以外の通学を認めていない。なお、駐輪場については正門脇にスペースを確保しており、学生も整然と使用している。

通学バスに関しては、路線バス会社と連携し、朝のラッシュ時に地下鉄 2 路線の駅から大学直近のバス停まで、学生用の臨時便を運行させている。

(7)本学では、学業の継続支援及び経済的困窮の解消を目的とした「札幌国際大学奨学金制度」を設け運用を行っている。同制度は、授業料の半額を免除する「一般試験入学・大学入試センター試験利用入学特別奨学金」、年額 24 万円を給付する「新入学生家計支援特別奨学金」「一般奨学金」と、教育ローンの借入れ保証料及び借入れ利息分について 10 万円を上限として一括補助する「奨学融資助成奨学金」の 4 種類がある。

また、上記奨学金同様、同窓会の協力を得て設置された「札幌国際大学同窓会奨学金」の制度も継続して運用している。

資料Ⅱ－B－3－2 は、過去 3 年間の間に各種奨学金を受給した学生数を示したものである。平成 23 年度に日本学生支援機構の貸与者が倍増し、ほぼ全学生の 4 分の 1 程度になっていることがわかる。

資料Ⅱ-B-3-2 奨学金制度及び受給者数（平成 25～27 年度）

（人）

	種類		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
札幌国際大学奨学金制度	一般試験入学・大学入 試センター試験利用入 学特別奨学金	A 型	—	3	1
		B 型	—	—	—
	一般奨学金		9	4	1
	奨学融資助成奨学金		1	—	—
	新入学生家計支援特別奨学金		—	6	11
日本学生支援機構	第 1 種奨学金		5	11	21
	第 2 種奨学金		51	93	95
その他	新冠町奨学金		—	1	—
	倶知安町奨学金		—	1	—

(8) 学生の健康管理については、年度初めに実施している健康診断や健康調査をもとに、大学生活を送る上で配慮が必要な学生について保健室担当職員が抽出し、学生個々との面談を通して心身の観察や問題の背景を分析するとともに、解決のための支援方法を教職員や関係者と共通理解のもと連携して対応している。

保健室の開室時間は毎日午前 9 時から午後 5 時までで、常駐 1 名の職員（養護教諭資格者）が対応している。ケガや急病などの応急措置、身体や病気についての悩みに加え、身体的不調の背景にある心のサインを見逃さないという立場から、精神的な問題などの相談にも応じている。そのため、各学科や部署、学生相談室、必要な場合は外部の専門機関とも協力し、学生個々に必要な支援内容を検討し支援している。また、健康教育にも重点をおき、禁煙教育や禁煙支援、性行動についてのアドバイスを行っている。

メンタルケアについては平成 19 年度に学生相談室を設置し、従来から実施しているアドバイザーや保健室での対応に加え、専門カウンセラー（臨床心理士）による相談体制を整えた。開設当初は週 1 日の開設であったが、現在は 3 名のカウンセラーにより、週 3 回、1 日当たり 5 時間程度の時間を確保している。年々相談件数が増え、相談内容も精神疾患や心理的な専門分野での相談が増加傾向にあり、開設時間増を含めさらに充実した体制となるよう拡充していきたい。

下記資料Ⅱ-B-3-3 は、過去 3 年間の保健室と学生相談室の利用者数を表したもので

ある。保健室の健康相談と学生相談室の利用者数が年々増加していることがわかる。

資料Ⅱ－B－3－3 保健室及び学生相談室利用者数（人）

保健室		平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
応急処置	内科系	202	188	87
	外科系	136	139	89
健康相談		181	196	156
禁煙サポート		6	8	0
測定・その他		75	48	127
計		600	579	459
来室率(%)		112.8	112.9	118.0
在籍数		532	513	389

学生相談室	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
相談件数	299	246	252

(9) 本学では、個々の学生にアドバイザーを配置し、個別相談等を通して学生生活全般について指導と助言を行うとともに、学生に意見や要望の聴取に努めている。また、毎年学生生活アンケートを実施し、学生生活の満足度を調査するとともに、個別の意見や要望をできるだけ次年度の計画に反映できるよう検討している。また、学生が日常的に意見や要望を伝えることができるよう、事務室内に投書箱を設置している。

さらに、年1回開催しているリーダー研修会では、学生の意見交換を通して要望のあった内容を検討し、体育館の施設整備や使用割り当て、新入生歓迎会の開催など、ハード及びソフトの両面において学生の要望を取り入れ、より充実した学生生活になるよう努めている。

(10) 短期大学部が提携している外国の大学・短期大学はないが、国内の他大学からの留学生については、交流センターやアドバイザーが相談に当たっている。

(11) 大学と共同で、社会人を正規授業で受け入れる「社会人教養楽部」を設置している。短期大学部の実績を見ると、「グローバルビジネスと経営」「ブランド戦略」「哲学」の授業に数名の受講者がおり、正規学生にとって学習上の良好な刺激となっている。

(12) 学内には、身障者用駐車場が1か所、同トイレが8か所、玄関スロープが11か所（各建物の入口に設置済み）、階段スロープが2か所、その他ほとんどの階段・通路に手摺を設置している。現在、本学には車いすの学生・教職員は在籍していないことから特段の問題は発生していないが、平成28年度からの障害者差別解消法の施行に伴い、学内環境やサポート体制の整備を一層進めていくための検討を行っている。

また、平成28年4月に施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の規定等に基づき必要な事項が定められた、文部科学省所管事業分野における「障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」に基づいて、本学の基本方針、体制整備等

を検討するために教職員協働の障がい学生支援体制検討委員会を設置した。

(13)長期履修生については、「学則」及び「長期履修学生規程」に、受入要件等詳細を定めている。ただし、現在まで短期大学部では長期履修生の受入実績はない。

(14)地域貢献やボランティア活動の内容については、「選択的評価基準」の3で詳しく述べる。

(b)【課題】

精神的な問題を抱える学生が次第に増加する傾向もあり、カウンセラーとアドバイザーが一層協力して学生支援に当たることが必要である。また、学生の意見を汲み上げる機会を拡げ、学生サービス全般、経済的支援、課外活動支援、心的支援、生活相談等を一層充実させていく方策を検討する。

基準Ⅱ－B－4 進路支援を行っている。

(a)【現状】

キャリア支援については、キャリア支援センターとアドバイザーが連携して行っている。また、キャリア科目やインターンシップにおいて、就職活動の基礎知識や技術を身につけさせている。

(1)本学の就職支援・キャリア支援は、教職員から構成されるキャリア支援センター員が任にあたっているが、日常の学生に対する就職支援・キャリア支援に関する諸業務は、主にキャリア支援センター職員が支援の中核をなしてその任を果たしている。

キャリア支援センターには、課長のほか5人のスタッフが常駐し、キャリア支援に関する対外的及び内部的業務全般を取り扱うほか、日常的な学生の相談に対応すべく、キャリアカウンセラーの資格を有するスタッフによるカウンセリングを随時行うなど、広範囲に学生の支援にあたっている。

キャリア支援センターに所属する学科教員は、基本業務として所属する各学科学生の進路動向を把握するとともに、年間のキャリア支援事業の企画・運営において学科教員との連携・調整にあたっている。

また、キャリア関連科目やインターンシップにおいて、就職活動の基礎知識や技能を学ばせるとともに、学科のアドバイザーが、学生一人ひとりに個別にアドバイスして支援を進めている。

(2)学生の就職支援については、キャリア支援センターがその中核となっている。キャリア支援センター事務室には、個別相談ブース、面接対策等に用いる会議室や応接室が整備されており、学生がいつでも利用できるパソコン、就活関連資料、個々の学生の相談状況（個別の面接指導や履歴書指導、採用試験対策）に応じて、随時対応できるよう整備されている。また、小規模で開催される課外講座のためのスペースも設けてある。さらにキャリア支援センター利用学生のため、学生が落ち着いた雰囲気の中で利用できるように、

センター内の環境整備（BGMなどの活用）も行っている。

就活資料室では求人関係資料と企業別ファイル、卒業生の活動報告資料が閲覧できるほか、企業情報収集のためのWeb環境を用意している。

(3) キャリア支援センターでは、さまざまなキャリア支援関連講座を開催している。大学生と共通で企業の個説明会を企画・開催している他、学科の求めに応じるなど年間を通じ就職講座の講師を務めている。また、保護者に対しても就職活動への理解を深めてもらう目的で説明会・懇談会を開催し、本学の就職関連情報を提供している。

資料Ⅱ—B—4—1 平成27年度キャリア支援関連講座 一覧

①大学生・短期大学部生共通講座

	開催日	講座名	対象
1	平成27年4月17日(金)	住友生命 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
2	平成27年5月13日(水)	北海道警察官 採用説明会	大学4年生 & 短大2年生
3	平成27年5月14日(木)	アブアウト 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
4	平成27年5月20日(水)～22日(金)	就活直前対策講座	大学4年生 & 短大2年生
5	平成27年5月20日(水)	金融講座(基本編)	大学4年生 & 短大2年生
6	平成27年5月26日(火)	FP3級ガイダンス	全学生
7	平成27年5月26日(火)	セノン 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
8	平成27年5月28日(木)	金融講座(基本編)	大学4年生 & 短大2年生
9	平成27年5月29日(金)	知床グランドホテル北こぶし 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
10	平成27年6月2日(火)	FP3級ガイダンス	全学生
11	平成27年6月11日(木)	第一生命 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
12	平成27年6月16日(火)	自衛隊 説明会	大学4年生 & 短大2年生
13	平成27年6月23日(火)	ボディワークホールディングス企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
14	平成27年6月24日(水)	イーストン 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
15	平成27年6月25日(木)	ジャパンビバレッジサービス 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
16	平成27年6月29日(月)	介護職員初任者研修ガイダンス	全学生
17	平成27年7月2日(木)	第一生命 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
18	平成27年7月10日(金)	ITX 説明会	大学4年生 & 短大2年生
19	平成27年7月14日(火)	知床グランドホテル北こぶし 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
20	平成27年7月15日(水)	アブアウト 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
21	平成27年8月8日(土)	真夏の学内説明会(企業・団体15社)	大学4年生 & 短大2年生
22	平成27年8月19日(水)～9月7日(月)	介護職員初任者研修	全学生
23	平成27年9月18日(金)	しゃべりのプロの失敗しないコツ	全学生
24	平成27年10月2日(金)	セノン 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
25	平成27年10月5日(月)	知床グランドホテル北こぶし 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
26	平成27年10月5日～全6回	キャリアアップカフェ	全学生
27	平成27年10月9日(金)	丸千代山岡家 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
28	平成27年10月15日(木)	プレシャス 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
29	平成27年10月31日(土)	紅葉の学内説明会(企業5社)	大学4年生 & 短大2年生
30	平成27年11月16日(月)	ボディワークホールディングス企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
31	平成27年11月21日(土)～11月22日(金)	就活合宿「ONE-SIU」	全学生
32	平成27年12月8日(火)	自衛隊 説明会	大学4年生 & 短大2年生
33	平成27年12月9日(水)	はなまる 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
34	平成28年1月22日(金)	共立メンテナンス 企業説明会	大学3年生 & 短大1年生
35	平成28年1月22日(金)	エイジェック 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
36	平成28年1月25日(月)	セノン 企業説明会	大学4年生 & 短大2年生
37	平成28年1月26日(火)	学内業界研究セミナーⅠ(企業・団体26社)	大学3年生 & 短大1年生
38	平成28年1月27日(水)	学内業界研究セミナーⅡ(企業・団体27社)	大学3年生 & 短大1年生
39	平成28年1月28日(木)	社会福祉法人厚生協会 説明会	大学4年生 & 短大2年生
40	平成28年1月28日(木)	北海道警察官 採用説明会	大学3年生 & 短大1年生
41	平成28年2月3日(水)	日本ハウスホールディングス 企業説明会・選考会	大学4年生 & 短大2年生
42	平成28年2月15日(月)	社会福祉法人希望の里 説明会	大学4年生 & 短大2年生
43	平成28年2月18日(木)	スタッフサービスメディカル 説明会	大学4年生 & 短大2年生
44	平成28年2月22日(月)～24日(水)	就活直前対策講座	大学3年生 & 短大1年生
45	平成28年3月25日(金)	北海道警察官 採用説明会	大学3年生 & 短大1年生

※企画・準備したが参加学生（大学生・短大生）がいなかった講座も含む。

②短期大学部学生向け講座

	開催日	内容	対象
1	平成27年4月23日(木)・24日(金)	リクルートフォト撮影	幼児教育保育学科2年生
2	平成27年5月25日(月)～29日(金)	進路調査票入力説明	幼児教育保育学科2年生
3	平成27年7月1日(水)	就職セミナー	総合生活キャリア学科2年生
4	平成27年7月8日(水)	就職セミナー	総合生活キャリア学科2年生
5	平成27年8月6日(木)	就職ガイダンス	幼児教育保育学科2年生
6	平成27年10月6日(火)	ゆこゆこ 企業説明会	短大2年生
7	平成27年10月7日(水)	就職セミナー	総合生活キャリア学科1年生
8	平成27年10月28日(水)	求人票の見方・就活サイト利用法	総合生活キャリア学科1年生
9	平成27年12月18日(金)	履歴書の書き方	総合生活キャリア学科1年生
10	平成28年1月13日(水)	就職セミナー	総合生活キャリア学科1年生
11	平成28年1月22日(金)	面接練習	総合生活キャリア学科1年生
12	平成28年1月29日(金)	面接練習フィードバック	総合生活キャリア学科1年生

③短期大学部保護者向け説明会・懇談会

	開催日	内容	対象
1	平成27年5月23日(土)	短大保護者説明会	総合生活キャリア学科の保護者
2	平成27年10月10日(土)	保護者懇談会(帯広)	全学生(大学・短大)の保護者
3	平成27年10月10日(土)	保護者懇談会(函館)	全学生(大学・短大)の保護者
4	平成27年10月17日(土)	短大保護者説明会	総合生活キャリア学科の保護者

(4)学生が取得可能な資格等は以下のとおりである。

年度初めのオリエンテーションで資格取得のための履修モデルを示し、学科教員がアドバイスすると同時に、学内ネットワークのキャンパスプランによって学生自身が取得状況を確認できるよう配慮している。

資料Ⅱ－B－4－2 各学科における取得可能な資格

取得可能な免許・資格	総合生活キャリア学科	幼児教育保育学科
	実践キャリア実務士 上級秘書士 上級秘書士(メディカル秘書) 情報処理士 ビジネス実務士 図書館司書	幼稚園教諭二種免許 保育士 図書館司書 こども音楽療育士

(5)就職内定状況は毎月の状況を学内ポータルサイトで報告している。また、学内外からの就職情報や雇用動向に関する情報なども、キャリア支援センター長や課長による分析をもとに、毎月定例のキャリア支援センター会議で報告・検討し、就職関連の情報を共有している。各学科では、ここで報告された情報を基にして、学生一人ひとりの活動状況を

確認しながらアドバイスにあたっている。

(6)進学や留学を希望する学生に対しては、まず各学科のアドバイザー教員がその相談にあたり、必要な場合は、キャリア支援センターとともに情報収集を行ない、対策を練るなどの支援を行っている。またキャリア支援センターでは、併設の札幌国際大学各学部を含む4年制大学編入学並びに各種専門学校情報を提供している。

(7) 幼児教育保育学科へのキャリア支援においては、近年の保育士不足である状況に対応して、学科と連携をとり就職を希望する卒業生へ保育施設の求人を紹介している。

(b)【課題】

一般常識や社会人としての基本的なマナーがやや欠けている学生も入学してくる事態を踏まえ、キャリア科目の充実やアドバイザーとキャリア支援センターの連携による就職指導を今後一層図っていく必要がある。

基準Ⅱ－B－5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している。

(a)【現状】

入学者受け入れ方針を入学試験要項およびAO入学ガイドなどに記載するとともに、本学ホームページにも掲載し、受験生および広く社会に対して明確に示している。

(1) 本学「入学者受け入れ方針」（アドミッションポリシー）は、建学精神・教育理念である「建学の礎」並びに「教育の基本的な考え方」に基づいて学科ごとに明確にされており、それは入学試験要項にも明確に示している。

(2) 本学では、受験生、受験生の保護者、高等学校などからの受験に関する問い合わせに関して、フリーダイヤルを設けて直接個別の問い合わせに対応している。また、進学相談会やオープンキャンパスの場においても、各学科の教育内容や受験に関する問い合わせはもちろん、就職支援や学生生活、奨学金などに関する問い合わせに対しても、相談窓口や相談時間を設けるなどの対応を行っている。

また、本学に対する資料請求者や進学相談会参加者、オープンキャンパス参加者などに向けて、本学の学科に関する情報提供、オープンキャンパスなどの情報をダイレクトメールにて送付し、受験・入学に向けての理解に供している。（送付対象者の個人情報厳密に管理されている。）

(3) 平成27年度から入学者確保に向けての組織体制の効率性と迅速性を高めるため、教員組織である入学支援部と職員組織である入学課の二つの組織を一本化し入学センターとして再編した。入学センターは、業務ごとにチーム制を敷き、教職員の協力体制の下で業務を推進している。業務に応じてセンター以外の教員の協力も依頼しながら、学生募集に関する入学広報・入試事務組織として機能している。

(4) 本学では多様な個性を持った入学志願者を広く受け入れるという方針の下、本学の「建学の礎」・「教育の基本的考え方」及び学科毎の「入学者受け入れ方針」に基づき、高校生が本学の教育のあり方・目指す教育を理解し、そこで学ぶ意欲や興味・関心、能力・適性、目的意識等を計る「AO入学」、高校での成績を重視した「学校推薦入学」、学力を重視した「一般試験入学」や「大学入試センター試験利用入学」、さらにスポーツ活動の実績をもつ者や社会人、外国人留学生などに対する「特別入学」といった幅広い選抜方法による入試制度を揃えている。入学者選抜方針は、入学試験要項を始めとする印刷物やホームページに掲載され、明示されている。

入学者の選抜に当たっては、それぞれの選抜方法ごとに「監督要領」「採点要領」などが定められており、さらに事前の打ち合わせを行っている。また、試験の結果については、入学センターの点検の後に学部長、学科長による事前審査、入試判定委員会の議を経て最終的に合否を決定しており、選抜業務は適正に行われている。

(5) 本学では、入学手続き者に対して、教務部門及び学生生活部門を統括する教務学生課から、奨学金や保険等入学後に必要となる諸手続きに関する情報を提供している。また、入学式後のスケジュールなどに関する情報は、各学科が提供している。また、入学までの段階における諸々の問い合わせについては、入学手続きに引き続き入学センターが対応して情報の提供を行っている。

(b) 【課題】

- ・受験生に対する入学者受け入れ方針の明示については、問題なく行われているが、(5)について多少の課題が残る。

- ・(5)の記載にあるとおり、入学式後のスケジュールなどに関する情報は、各学科が提供しているが、一部の学科においてはそれが不十分であった。例えば入学直後の宿泊研修や、教科書代、服装、その他2年間を見通して準備しておくべき細々とした事柄などについてである。これらは、学科によってそれぞれ異なるため、学科ごとに情報を取りまとめ入学予定者に提供することが望ましい。入学試験要項には、入学後に必要な主な諸経費等が記載されているが、入学後まで手元において置くものとは限らない。手間を惜しまず再度情報を提供し、学生が戸惑いなく新生活をスタートできるように、学生の視点に立った情報提供のありかたが求められている。

基準Ⅱについての特記事項

特になし

選択的評価基準

1. 教養教育の取り組みについて

(1)「建学の礎」で最も重要な理念である「真理を探ね、自由を愛し、自らを省みる自立した人間」とあるのは、社会の中で自己の役割や在り方を認識し、自ら倫理観を確立して判断ができる人間を育成することを目的としている。この目的のために、本学の教養教育が実施されている。この理念を受け、総合生活学科キャリアでは「様々なフィールドで活躍できる就業力、生活力、自立し協働できる力を持ち、教養を備え、自らのキャリアを切り開くことのできる社会人」、また、幼児教育保育学科では、「共感的な知性と感性に支えられた、人間性豊かな保育者」を育成することをそれぞれ学科の目標で定めている。

(2)上記の目的を達成するため、本学では教育課程に大区分として「教養科目」、小区分として「基本」、「言語・発表」、「情報」、「キャリア」の4区分を設定している。「基本」の区分では、人間としての在り方や生き方について学ぶ、「人間の心理」、「現代社会論」などを配置している。また、専門分野に関わりなく共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の習得については、「学びの技法」、「基本演習」、が担当している。さらに、社会人として自立するために必要な最低限の言語力と表現力を確保するために、「日本語基礎表現法」や「日本語応用表現法」、「プレゼンテーション演習」などの科目がある。

「学びの技法」「基本演習」などは、アドバイザーを中心とする学科教員が担当し、学科の教養教育の目的を共有してその達成を図るよう努力している。また、それ以外の科目の担当者とも、互いに情報交換に努めている。

(3)教養教育の測定・評価については、平成 21 年度から実施しているキャリアパスシステムにおいて、1 年次、2 年次にそれぞれ、学生に自己評価をさせている。教養教育は、上記のようなカリキュラムに設定されている科目の中で実現されているとともに、アドバイザーや学科教員が生活指導やサークル指導において実現されており、それらの効果を全体として測定・評価する方法として、キャリアパスシステムは有効と考える。評価はキャリアパスノートシートに記載し、各自がそれを保管して、面談時などに活用し、その後の改善の基礎となっている。

また、総合生活キャリア学科では、漢字検定の受験を全学生に課す、学科の学生の状況やニーズに合わせて授業を工夫できるよう、日本語基礎表現法、日本語応用表現法を学科教員が指導するようにするなど、日本語能力の育成を目指し、学生個別の目標を設定してそれを達成するよう指導している。さらに、幼児教育保育学科では、学生のキャリアパスノートや指導案等の作品、ノート、レポート、自己評価等から捉えると共に、実習先や就職先への巡回指導や訪問の際に先方から課題の指摘や意見聴取を行い、学科で情報共有し、指導の改善を図っている。

選択的評価基準

2. 職業教育の取り組みについて

(1) 本学の教育目標の根幹となる「社会的に自立する」人間の育成のため、職業教育は本学の教育課程の中心的な役割を担っている。その具体的な教育活動の一つは、全国大学実務教育協会が認定する各種実務士の取得が可能な科目の配置を中心とする、実務教育の推進である。学生は、単に職業関連科目を無秩序に履修するのではなく、実務士の取得という目標を持ち、そのために体系的に配置された科目を順序よく履修・習得することができる。また実務士取得の実現に向けた受講科目選択の指導・支援を学科教員（アドバイザー）が行っており、本人の希望や適性、将来の職種選択を加味しながら実務士取得を念頭に置いた科目選択を可能としている。また、幼児教育保育学科では、「保育現場で生きて働く力」を身に付けた保育者養成を目指し、その実現に向けて学科教員が共同で取り組んでいる。

他の具体的な教育活動は、教育課程の「教養科目区分」中の「キャリア」に設置された「キャリア形成」、「キャリア基礎演習」、「キャリア応用演習」、「インターンシップ」などのキャリア教育科目の実施である。キャリア教育の必須化が叫ばれる以前より本学ではキャリア教育に力を入れており、就職から先の職業人生を見越した、「就業力」の育成に全力を入れている。特に、「キャリア形成」では、学生一人ひとりがライフサイクルの中で職業を位置づけることから始めて、業界や職種を研究したり、職業として保育者を考える視点を育んでいる。また、「キャリア基礎演習」と「キャリア応用演習」では、社会人として必要な実践的スキルの構築や、対人コミュニケーション能力の向上を目指す演習を取り入れており、就職対策はもちろん、社会人として必要なスキルの獲得を目標としている。さらに大学教育で育成された能力を社会の現場で活用しながら、学内では履修が困難である「現場の知識」を得るためのプログラムとして、「インターンシップ」や幼稚園・保育所・施設での学外実習をカリキュラムに導入しており、実務能力の学習と実践を一体的に実施することに努めている。これらの実習により知識を実践に結びつけるスキルの向上につながり、職業教育の重要な役割を果たしている。

(2) 高等学校における職業教育を継承し、人生設計の中で職業を考えながら、目的とする職業に必要な資質や技術の習得を目指すよう指導している。特に、幼児教育保育学科では、幼児教育者としての資質や適性を十分理解して進学することの大切さを認識し、高等学校での出前授業を積極的に行い、保育職についての意義や役割、仕事の内容等について生徒の学びの場を提供している。

また、総合生活キャリア学科では、就職先が多岐にわたるため、どの職場においても役立つ知識として漢字検定の実施、また、簿記、ファイナンシャル・プランニング技能士、医療事務など、実際の職業に関連する資格獲得に向けた学習を奨励している。一方で金融系業種に関する「生活と銀行」や販売系業種に関する「マーケティング」などの科目を設定し、就業に向けた知識の獲得、特定職業分野についての理解を得られるよう、カリキュラムを設定している。

(3) 総合生活キャリア学科においては、全国大学実務教育協会が認定する実務士資格取

得を中心とした実務教育と、有機的に編成された複数のキャリア科目によって職業教育の内容を定め、学科アドバイザーを中心とする就職指導と連携して実施している。

インターンシップについては、その内容の充実度、展開している業種の数では、道内でも群を抜く実績を上げている。平成 27 年度の短期大学の実績は、派遣先 22 団体、派遣学生延べ 45 名となっている。

特に総合生活キャリア学科ではオープンキャンパスにおいて、卒業生 5 名を招聘し卒業生と在学生、さらに本学科を目指す高校生との交流として「ガールズ・キャリア・コレクション」を実施した。在学生の企画により、卒業生のリアルな職業生活を知るため公開インタビュー形式をとり、職業への理解を深めると同時に交流を深めた。

また、幼児教育保育学科においても、「キャリア形成」を平成 23 年度から導入するとともに、平成 24 年度からは「キャリア基礎演習」を教育課程に配置し、専門科目における指導やオープンキャンパス、「わくわくフェスティバル」「人形劇」等の学科プロジェクト活動とともに、アドバイザーによる指導を有機的に関連づけて展開している。

(4) 26 年度までは、短期大学部キャリアパス・学習支援センターが中心となり、キャリアパスノートと呼ぶ学習ポートフォリオを作成し、学生の自律的学習、学習記録の記入を促すことで、学生生活の様子を学科教員が容易に把握することができるようなシステムを構築してきた。このポートフォリオは、学生の就職活動状況の把握や、キャリア支援センターとの連携、指導に大変役立っている。27 年度からはセンターを解体し、各学科にその機能を移行、それぞれの学科において担当者が、ノートのさらなる充実と有効利用に向けて改訂を行っている。

また、総合生活キャリア学科では、就職活動を行う在学生と、実際に社会に出て働く卒業生との交流の場を作ることで、在学生の就業のイメージや、日常生活の改善を促すシステムを構築している。同時に卒業生から現場の状況や悩みなどの相談を受けることで、離職を未然に防ぐと同時に、在学生への職業教育の改善を進めるサイクルを構築している。

(5) 総合生活キャリア学科で職業教育を担当する教員の多くは、日本ビジネス実務学会や日本インターンシップ学会の会員であり、職業教育の研究発表、論文等、教育成果を検証しながら教育に当たっている。

幼児教育保育学科においては、保育現場と実践に即した教育活動を展開するため、学科の教員が必ず付属幼稚園実習に学生と共に参加するようにしている。

(6) 全国大学実務教育協会が認定する実務士資格にかかわる科目や、「キャリア」区分に属する科目などの履修・修得状況、就職内定率、入学から卒業後 2 年までの質保証を試みるキャリアパスシステムにおける自己評価などによって、職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

平成 27 年度 インターンシップ派遣先・派遣人数（総合生活キャリア学科）

受入先	前期	後期	合計
あとりえYOU	1		1
株式会社 エル・ワーク	2		2
株式会社 紀伊國屋書店 札幌本店	4	4	8
株式会社 キャスト	1		1
株式会社 札幌チェンバー	2		2
株式会社 ワンダードック	2		2
ネットヨタ道都 株式会社		1	1
北海道日産自動車 株式会社		1	1
京王観光 株式会社 札幌支店	2		2
株式会社 ジュアン・ペルル		2	2
GHS 株式会社 千歳ホテル事業所 ANA クラウンプラザホテル千歳		1	1
株式会社 かりゆし 沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ		1	1
株式会社 グランビスタホテル&リゾート 札幌グランドホテル	1		1
株式会社 プリンスホテル 札幌プリンスホテル	1		1
京王プラザホテル札幌	1		1
いわない温泉 高島旅館	1		1
株式会社 北海道銀行		5	5
株式会社 北洋銀行		6	6
公益財団法人 札幌国際プラザ		2	2
メアリースクール		1	1
市立千歳市民病院	1		1
社会医療法人 耳鼻咽喉科麻生病院		2	2
合計	19	26	45

選択的評価基準

3. 地域貢献の取り組みについて

(1) 学園全体としては、社会人教養楽部という名称で正規授業の開放及び社会人向けの公開講座を展開している。短期大学部だけの実績を見ると、平成 27 年度は 4 講座、延べ人数で 7 人となっている。正規授業における社会人の受け入れは、まず学生の学習機会を保証することを基本にして、課題を検討しながら今後も続けていきたい。

(2) 地域社会との交流活動については、総合生活キャリア学科から、現代文化学科主催の「外国人による日本語弁論大会」にスタッフとして参加し、地域の人や留学生と交流を行った。

(3) 課題解決演習授業において、地域をテーマにした課題に取り組んだチームは、エゾシカ肉について調べ、学科学生に対してプロモーション活動を行った。また、札幌商工会議所主催の観光アイデアコンテストに出場し、優秀賞をいただいた札幌の観光閑散期対策を考えるプロジェクトの内容は、実用化に向けて現在商工会議所との検討が続いている。

(4) 総合生活キャリア学科では、NPO 団体が行うボランティア活動の紹介などを行い、参加者に対してはレポートを提出させ、評価するなどして、参加を促した。27 年度は複数の学生が円山動物園での活動に参加した。

(5) 幼児教育保育学科では、「総合表現演習」の科目の成果を学科の行事「わくわくフェスティバル」として地域に公開し、近隣の親子にミュージカルやコンサート、体験コーナー等で楽しんでもらっている。また、大学の清麗祭でも心理学科子ども心理専攻、専攻科幼児教育専攻と共に「こどもの広場」を開催し、様々な遊びと表現活動の鑑賞の場を提供している。

(6) また幼児教育保育学科では、生涯学習センターと連携し、学科科目「ボランティア演習」、及び「こども音楽療育実習」において、地域の障がい児と保護者のための「音楽療育ワークショップ」を年に 10 回実施している。また、札幌市清田区の子育て支援関連の行事や、子育てサロン、施設、幼稚園等の行事などに学生ボランティアとして積極的に参加している。